臼杵市立北中学校
校長通信 NO.28
令和8年11月17日
文責:戸髙浩二

叡智と愛 3.0

北中生へ　シン・文化祭 3.0 を終えて

今年の文化祭が終わった。

1学期から他学年の仲間と共に取り組んできたシン・探究。2学期からクラスの仲間とつくり上げてきた合唱。これまでの軌跡を表現し、見事な大輪の華を咲かせた文化祭。3年目を迎えたシン・文化祭は北中生の創造力や表現力、団結力、そしてパワーが発揮された最上・最高の文化祭となった。一人ひとりが光り輝く北中生を観ることができた11月14日はとても幸せな時間だった。



メディア・映像チーム:オープニング・エンディング映像

シン・探究の取り組みや北中生の素顔をテンポのよい曲にのせて創られていた。自分たちが取り組んだ成果を表現する文化祭。今年の文化祭はどんな文化祭になるのだろうか。そんな期待が膨らむ見事なオープニング映像だった。

エンディング映像は、オープニング映像に増して、これまでの軌跡が散りばめられた映像だった。映像は写真と動画、字幕、音楽をうまく組み合わせながら仲間と共に創り上げていく軌跡を見事に表現していた。「これまでいろんなことがあったなぁ」「ああ、文化祭が終わるんだ・・・」そんな感傷に浸るエンディング映像だった。

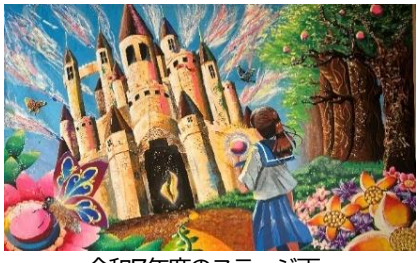
美術部ステージ画紹介

2年前のステージ画は未来に続く道を表現。昨年のステージ画はその道を歩んで、たどりついた城。そして今年はその城の中。このようにステージ画は見事なストーリーを描いていた。

ステージ画には若者の夢や希望、生命のもつエネルギー、そして学校教育目標「叡智と愛」、文化祭テーマ「軌跡」がしっかりと描かれていた。言葉の無い絵画にはモチーフ(モノや人物、動植物、風景、テーマなど)に描く人の想いが込められ、それが表現されている。観る人は今、自分が置かれている立場や想いで作品を受けとめる。時に感傷に浸り、時に勇気をもらい、時に未来への希望を抱く。

今年度のステージ画は観る人によって、「仲間と気球に乗って旅をする自分」「魚となって大海原を自由に泳ぐ自分」「困難な状況でも、叡智と愛、希望を武器に未来に向かって突き進む自分」などそれぞれが自由に想像できる作品だった。何よりも城の中にそびえ立つ巨大な塔は大阪の万博公園にある「太陽の塔」の内部を思い出した。「太陽の塔」の中には巨大な木がそびえ立ち、その木に太古から現代までの生物が取り巻き、生命の進化や未来を表現している。今回のステージ画の塔も、人間だけでなく、あらゆる生命がこの塔をたどり、その先にある光り輝く未来に向かっていく様子を思い描いた。

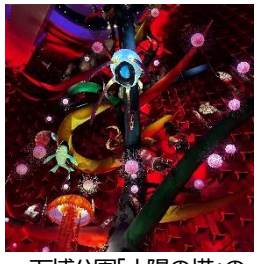
今年度のステージ画は、想像力を掻き立てられる繊細さと壮大なスケールを併せ持つ大作だった。


令和7年度のステージ画


令和6年度のステージ画


今年度のステージ画




万博公園「太陽の塔」の外観(上)と内部(下)